

消防団報酬不正「野放し」

消防団員に支給されるべき報酬を分団が受け取ったり回収したりしている問題を巡り、団員から新たな情報や改善策が毎日新聞に数多く寄せられた。新たな不正の手口を明かす声がある一方、長年の慣習であって「問題なし」とする意見も。不正を知りながら見て見ぬふりを続けてきた行政の姿勢も浮かび上がってきた。

新たな情報次々

見えない予算

是正要求に「ノー」

「消防団時代のことを、全てお話ししたい」。ある自治体で消防団の幹部を務めていた男性が毎日新聞の取材に応じた。汗をかいた者に報酬が届くようにしたい。男性はそんな思いで団員それぞれに報酬を個人支給す

る方式に切り替えるように役所に打診した。しかし、担当者の答えは「ノー」。「業務が煩雑になる」などとして申し出は拒否された。そこで、団員の口座から引き出した報酬を使った飲み会や旅行を禁止することにした。しかし、これには他の幹部団員が強く反発。今年3月末で幹部職を退いたが、「公金を使って私腹を肥やすのはやはり許せない」と語気を強めた。

不徹底な自治体調査 20人の通帳印鑑保管 団員に振り替え指示

される「出勤報酬」があり、いずれも原資は税金だ。各市町村が条例で定めて支給している。その報酬を巡っては、団員個人ではなく分団がプールして飲食や旅行代に充てるなどのさまざまな管理が長年、問題となっていた。総務省も2回にわたって調査を実施。約3割（今年4月時点）の自治体で個人支給が進んでいない。

毎日新聞は6月、消防団員に銀行口座を新規に開設させ、その口座の通帳やキャッシュカードを団幹部が回収し、行政から振り込まれる報酬を団員個人に直接渡さない不正が複数の消防団で行われていることを報じた。今回、新たに寄せられた情報で明らかになったのは、報酬などが振り込まれる通帳やキャッシュカード、暗証番号に加え、

団員個人から回収した銀行口座の通帳と印鑑。本人になりすまして銀行印を使用することは法律で禁じられている。埼玉県狭山市の消防団員提供。ある消防団員の通帳。振り込まれた報酬のうち、約50万円が別の口座に振り替えられていた。高橋祐貴撮影

埼玉県狭山市のある消防団員は新たな不正の手口を明かした。毎日新聞が入手した内部資料やこの団員の証言によると、ある分団ではポンプ車などを管理する機庫に約20人分の通帳と印鑑を紙箱に入れて保管している。会計担当者らが銀行に出向いて、この印鑑を使って「振込

は全て一括管理するのが当たり前だ」などと、報酬を一括管理する妥当性を主張する意見も寄せられた。

多額遊興費に驚き

若者を中心とする消防団離れの一因ともされる不透明な報酬体系。その改善に向けた動きも出ている。

東京都内の女性が所属する分団では1月、全団員が参加する会議が開かれ、回収された団員個人の通帳が返却された。中身を見ると、飲み会や旅行費に充てるために、報酬などとして支給された約50万円が一括で引き出されていた。「これだけの額の税金が遊興費に使われている状態にはかなり驚いた」。女性はこう振り返る。

毎日新聞は6月、消防団員に銀行口座を新規に開設させ、その口座の通帳やキャッシュカードを団幹部が回収し、行政から振り込まれる報酬を団員個人に直接渡さない不正が複数の消防団で行われていることを報じた。今回、新たに寄せられた情報で明らかになったのは、報酬などが振り込まれる通帳やキャッシュカード、暗証番号に加え、

埼玉県狭山市のある消防団員は新たな不正の手口を明かした。毎日新聞が入手した内部資料やこの団員の証言によると、ある分団ではポンプ車などを管理する機庫に約20人分の通帳と印鑑を紙箱に入れて保管している。会計担当者らが銀行に出向いて、この印鑑を使って「振込

は全て一括管理するのが当たり前だ」などと、報酬を一括管理する妥当性を主張する意見も寄せられた。

多額遊興費に驚き

若者を中心とする消防団離れの一因ともされる不透明な報酬体系。その改善に向けた動きも出ている。

東京都内の女性が所属する分団では1月、全団員が参加する会議が開かれ、回収された団員個人の通帳が返却された。中身を見ると、飲み会や旅行費に充てるために、報酬などとして支給された約50万円が一括で引き出されていた。「これだけの額の税金が遊興費に使われている状態にはかなり驚いた」。女性はこう振り返る。

「見えない予算」に関するご意見や情報を毎日新聞経済部 (t.keizai@mainichi.co.jp) までお寄せください。

【高橋祐貴】

個人への報酬を分団が管理 団員の胸の内は

40代男性 10年間、通帳の入金額を見たことがない。団員が何を言っても「公言するな」というのが実情で、市も実態を把握していない

60代男性 報酬を旅行や飲み食い代に充てているのは事実。長くやってきた「しきたり」だ。文句を言う人はいない

20代男性 取材に直接答えないようにと役所から連絡がきた。個人口座に振り込んだ後、団口座に振り込ませるシステムは違法だ

72歳男性(OB) 男性 消防団に在職した20年間、報酬を受け取ったことは一度もない。文句を言った人間も誰もいない。報酬を飲み食いに使って何が悪いのか

消防署内に設置された団体が消防団から「上納金」を集めている。歳費名目で会計は団員に公開されない。悪質だ



項目	金額
1	5,000
2	10,000
3	15,000
4	20,000
5	25,000
6	30,000
7	35,000
8	40,000
9	45,000
10	50,000
11	55,000
12	60,000
13	65,000
14	70,000
15	75,000
16	80,000
17	85,000
18	90,000
19	95,000
20	100,000

神奈川県内のある消防団の団員は、幹部の指示で農協系金融機関の口座を開設。その際、支給された報酬を分団関係者の口座に振り替えることも指示されたという。「問題を「見えない化」しているだけで、団員数も減り続けている中、危機感が薄すぎる」と話す。

不透明な報酬体系や行政の対応に不満の声が上がる一方、高齢団員や団員OBからは「お金

ご意見お寄せください

「見えない予算」に関するご意見や情報を毎日新聞経済部 (t.keizai@mainichi.co.jp) までお寄せください。

【高橋祐貴】